



〈編集・発行〉
独立行政法人 国立病院機構
奈良医療センター
<https://nara.hosp.go.jp/>

りえぞん

Liaison

vol.55

独立行政法人国立病院機構 奈良医療センター

令和5年11月

医療関係者の皆様へ 「りえぞん」(Liaison)とは、フランス語で「連携・つなぐ」といった意味をもちます。
奈良医療センターは、地域の医療機関との連携を深め地域医療の推進に努めていきたいという思いで名付けました。

病院理念

私たちは、質の高い医療を提供し、地域の皆様の健康を支援することにより、信頼される病院を目指します
患者第一、安心安全な先進医療を提供します

令和5年度 病院目標

呼吸器疾患と神経疾患を中心とした
「面倒見のいい病院」の機能を高める



Contents

● 神経筋難病医療の現況 (診療部長 松村 隆介)	2	● 訪問看護サービス開始	7
● 部門紹介—てんかん支援拠点病院	3	● 奈良東養護学校作品紹介	7
● 放射線検査について (岩井 康典 診療放射線技師長)	5	● 連携施設のご紹介コーナー VOL.17	8

神経筋難病医療の現況

診療部長 松村 隆介



皆さん、こんにちは。脳神経内科の松村隆介と申します。私は、パーキンソン病や脊髄小脳変性症といった神経難病、ならびにデュシェンヌ型筋ジストロフィーといった筋難病を専門にしています。よく「神経筋難病は治らない」と言われますが、私が医師になった頃（30年以上前）は、まさしく手も足も出ない状況でした。かろうじてパーキンソン病だけは、抗パーキンソン病薬がいくつかあり、症状の緩和は出来ましたがまだまだ不十分なものでした。その後長く停滞したままでしたが、2000年代に入ると新しい抗パーキンソン病薬が次々に上市されました。さらに、パーキンソン病に対する外科治療である脳深部刺激療法が本格的に導入されました（当院脳神経外科はその専門施設として有名です）。パーキンソン病は、現在では20種類以上存在する内服薬と脳深部刺激療法をうまく使うことで、昔に比べて症状のコントロールに大きな進歩がみられています。

しかし、パーキンソン病以外の神経筋難病の治療に関しては、非常に厳しい状況が続いていました。ところがここ5年ほどの間に大きな変化が起きています。神経筋難病の原因となる遺伝子に直接働きかける治療法が臨床の場で使えるようになり始めたのです。脊髄性筋萎縮症に対する核酸医薬品、さらに、より根本的な治療法である遺伝子治療薬も承認されました。また、デュシェンヌ型筋ジストロフィーに対しても核酸医薬品が使えるようになりました。米国では同疾患に対する遺伝子治療薬も承認されています（日本でも近い将来承認されると思われます）。これらの治療により、病気の進行の抑制や、場合によっては病状の回復も期待出来るようになってきました。もちろん、治療開始初期にみられる効果が長期的に維持されるのかどうかは今後の経過をみる必要がありますし、一部重篤な副作用が報告されていることなど課題はあります。しかし長く難病医療に携わってきた私にとっては、私が医師になった頃とは隔世の感があります。本当に今後が楽しみです。

一方で、まだ治療法がない神経筋難病が多く残されていることも事実です。この場合、病状をいかに少しでも安定させるか、患者のQOLを維持・向上させるかが目標になります。そのためには病気の特徴をよく知り、常に病気の一步先をいく治療とケアが必要で、いわゆる“ノウハウ”が重要になってきます。当院は長年にわたり神経筋難病の医療に携わってきたことから、そのノウハウを蓄積してきたと自負しています。これからも医療の進歩を積極的に取り入れながら、このノウハウを存分に使って、神経筋難病医療を推し進めていきたいと思えます。

部門紹介

てんかんセンター 澤井 康子（小児神経科医長）

てんかんセンター

てんかんという病気をご存じですか？

「がくがくとけいれんする」というのが、一番有名なてんかん発作の形ですが、それ以外にも、「ぼんやりして、受け答えがおかしくなる」などの発作の形もあります。また、てんかんのような症状なので、なんとなくてんかんと診断されていても、実は別の病気のことがあります。

「もしかして、これって、てんかん？」と思ったときに、「どの病院に通院したらよいか？」は、よくわからないものです。そこで、厚生労働省は、各都道府県に1か所、「てんかん支援拠点病院」の指定をすすめています。いわば、「てんかんの駆け込み寺（病院？）」となる医療機関を指定しています。奈良県では、2021年、当院が「てんかん支援拠点病院」に指定されました。てんかん患者様の治療・相談、医療スタッフの教育、てんかんに関する啓蒙活動を行うのが、当センターの役割です。

当院では、発作のコントロールをしやすいてんかんから、難治性のてんかんまで幅広く対応しています。より充実した医療を展開するには、様々の分野のスタッフの協力が不可欠となります。当院のてんかんセンターのよいところは、様々の医療スタッフが、様々の面で協力的であることです。そのことをいつも心強く思いながら、診療にあたっています。

今回は、そんな頼もしい、てんかん医療を支える当院の様々な医療スタッフについて紹介したいと思います。

◆診療部

（脳神経外科・脳神経内科・小児神経科）

赤ちゃんからお年寄りまで、幅広く対応するため、上記診療科のてんかんと専門とする医師が診療にあたっています。奈良県立医科大学とも診療の面で連携をとっています。地域の様々の医療機関からも、様々のてんかん患者様をご紹介いただき、精査・治療にあたっています。難治てんかんをお持ちの患者様にも対応できるように、近隣のてんかん専門医が集まり、定期的に脳波カンファレンスやてんかんカンファレンスを行っています。

◆臨床検査部

てんかんの診療で一番大事な検査は「脳波」です。当院では、通常の脳波検査（外来で1時間程度でできるもの）と長時間ビデオ脳波検査（入院にて、1～7日間行う脳波検査）を行っています。特に、当院の長時間ビデオ脳波検査システムは非常に充実しており、てんかんの発作の種類の手定や、発作かどうか分からない動きを、脳波・画像・音声の同時記録で判定しています。また、脳波解析専門技師が、脳波解析や患者様の観察等、きめ細やかにサポートしています。



◆心理療法士

てんかんをお持ちの患者様の中には、知的な問題が合併していたり（小児の場合は発達の遅れがめだつてきたり）、情緒の不安定さ（抑うつ・不安）や行動の異常が目立つケースがあります。当院では、それらの評価のために、神経心理検査を組み込み、フォローアップ体制をとっています。また、必要な場合は、心理療法士による面談も行っています。

◆薬剤部

診察室で、医師からてんかんに関する薬剤の説明を行います。ここでは補いきれない場合、薬剤師が薬の説明や使用方法等を説明するシステムをとっています。また、新薬の治験も当院で行っており、治験に関連する様々の診療情報の収集・検査の案内・精神症状の聞き取り等、行っております。

◆看護部

てんかん患者様・家族と「医療機関・福祉・行政機関」との橋渡しを行うために、全国的に「てんかん診療支援コーディネーター」の育成が行われています。てんかん地域診療連携体制整備事業が行う研修会受講後に正式に認定されます。当院には、平素からてんかん患者様の看護も行っている8名の看護師が、てんかん支援コーディネーターに認定されています。院内で「コーディネーター会」を発足させ、今後の活動の方針を決めているところです。

◆臨床工学士

当院の臨床工学士は、様々の医療機器の取り扱いの専門的知識を持っています。てんかんの分野では、迷走神経刺激装置（VNS）を留置の患者様の定期的なチェックを行っています。

◆放射線科

てんかんの検査には脳波検査も大切ですが、画像診断（特に頭部MRI検査）も必須となります。検査を急ぐ際には、柔軟に検査枠を設定したり、気になる異常所見がみられる場合は、主治医にいち早く報告する体制が整っています。検査に対する不安が高いお子様に対しては、事前に検査室を見学できるような配慮等もなされています。

◆栄養課

てんかんの治療のメインは、薬物療法（抗てんかん薬）や手術ですが、時に、それらが有効でなかったり、治療適応にならない場合、「ケトン食療法（食事療法的一种）」があります。メニューの作成や栄養指導がかなり難しいのですが、それに対応できるように体制を整えています。

◆てんかん相談室

医療費・手帳・運転免許・転居に伴う通院先、就職支援等の相談窓口で、医療ソーシャルワーカー（MSW）が対応しています。てんかん支援コーディネーターの資格も有しています。なにかわからないことがあったら相談できる窓口にしています。

◆事務（医事課）

当院では、様々なてんかん研修会の企画をしていますが、その企画立案や広報活動を行っています。また、てんかん協会「なみの会」奈良県支部との連携や、奈良県疾病対策課との連絡、奈良県下の関係医療機関との連携等、てんかん患者様を守るためのシステム構築を行っています。

放射線検査について

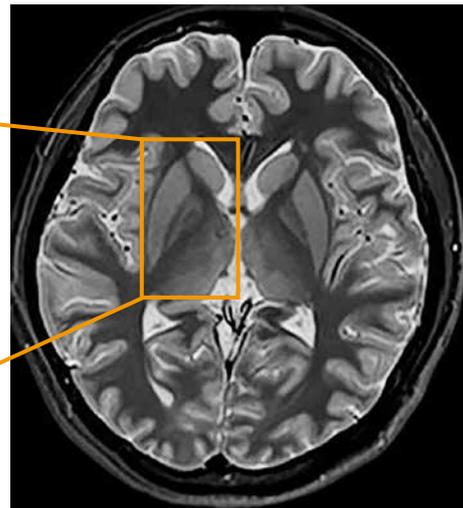
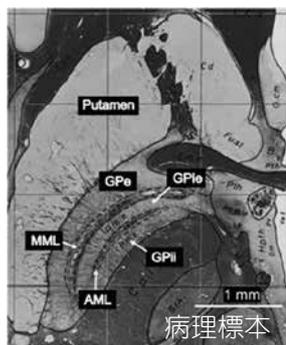
～ 第2回 頭部領域特殊検査 ～

診療放射線技師長 岩井 康典

第1回に引き続き頭部MRI画像について紹介します。

当院は、得意分野として高次脳機能障害および機能的脳神経外科分野があります。さらに奈良県のてんかんセンターとして機能しています。そのため、脳の特殊な領域に対応したMRI画像を撮像しています。全てではありませんが、特徴的な撮影方法を紹介します。

●DBS用シーケンス



当院では、脳深部刺激療法（DBS）や凝固術等の手術療法を実施しており、手術支援観点から詳細な解剖学的内部構造の可視化を必要としているため、画像描出に努めています。

●脳変性疾患シーケンス

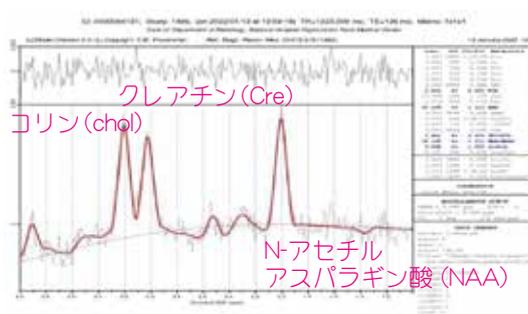
パーキンソン病(Parkinson's Disease)は、四大症状（安静時振戦・無動・姿勢反射障害・筋強剛）が特徴の中老年以降に好発する神経疾患であり、黒質の細胞が変性することにより、ドパミン産生が低下することが原因と考えられています。

黒質の信号変化をとらえることにより、パーキンソン病と脳変性疾患との鑑別の参考としています。



○：黒質

●海馬MRSシーケンス

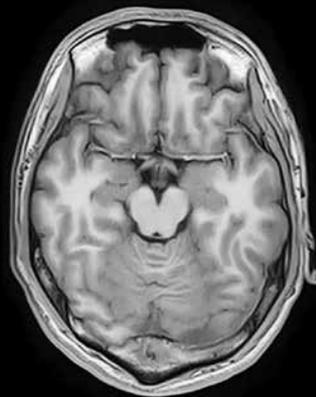


NAA/CreあるいはNAA/chol値の低下がてんかん焦点診断に有用とされている。当院では年代別に基準値を設け、診断の一つの指標として用いています。

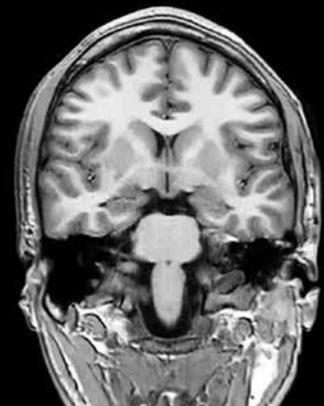
次ページに1例として、てんかんに対する当院の頭部の撮影画像を一覧で示します。



MPRAGE Sag



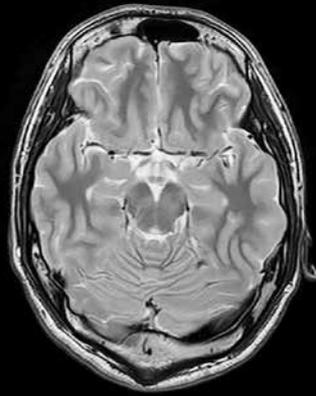
MPRAGE Ax



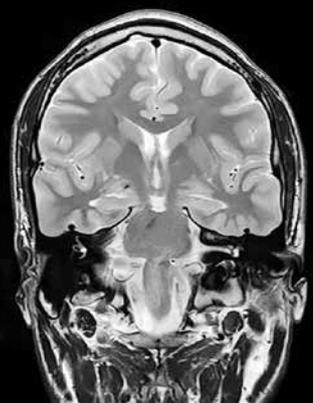
MPRAGE Cor



T2 Sag



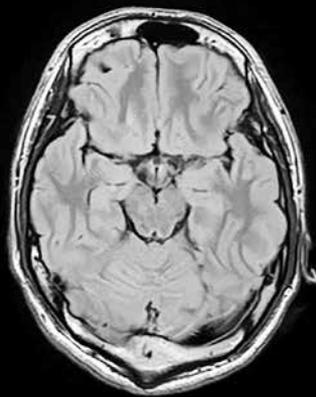
T2 Ax



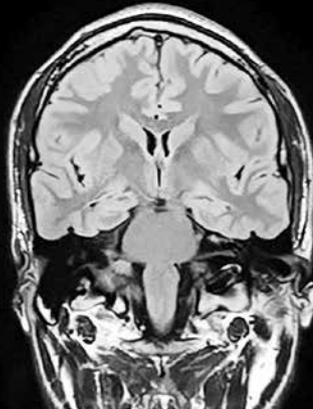
T2 Cor

Ep-1
9シーケンス

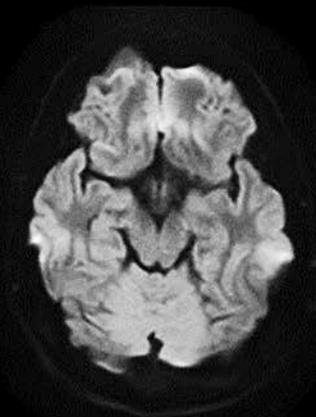
検査時間
15~20分



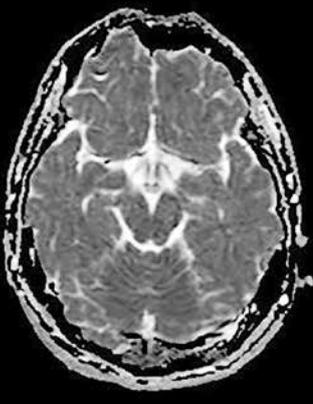
FLAIR Ax



FLAIR Cor



DWI Ax



ADC

今回は、当院の脊椎を中心とした整形領域のMRI撮影を紹介いたします。(つづく)

訪問看護 サービス開始

令和5年1月～



奈良医療センターが始める
訪問看護って？



当院にかかりつけの患者様に対して専門的な知識を有した看護師などがお住まいを訪問します



病気や障害を持った方とそのご家族が住み慣れた地域でその人らしく生活できるよう様々な支援を行います



独立行政法人 国立病院機構
奈良医療センター

奈良県奈良市七条2丁目789番地
TEL : 0742-45-4591 (代表)



奈良医療センター 訪問看護



奈良東養護学校生徒さんの作品紹介

当院正面入り口に奈良東養護学校の生徒さんによる作品の展示をしています。

毎月、素敵な作品で癒されています。



塩谷内科診療所

浜崎 直樹 院長

奈良市の左京で開業している塩谷内科診療所です。最寄り駅は近鉄高の原とJR平城山です。理事長の塩谷と院長の浜崎の2名の医師で呼吸器内科、一般内科の診療を行っています。奈良医療センターには呼吸器疾患の診断や治療が困難な患者さんをご紹介してお世話になっております。今後ともよろしくお願い申し上げます。



診療科目：内科、小児科

診療時間：月、火、水、金 午前診 9:00～12:00

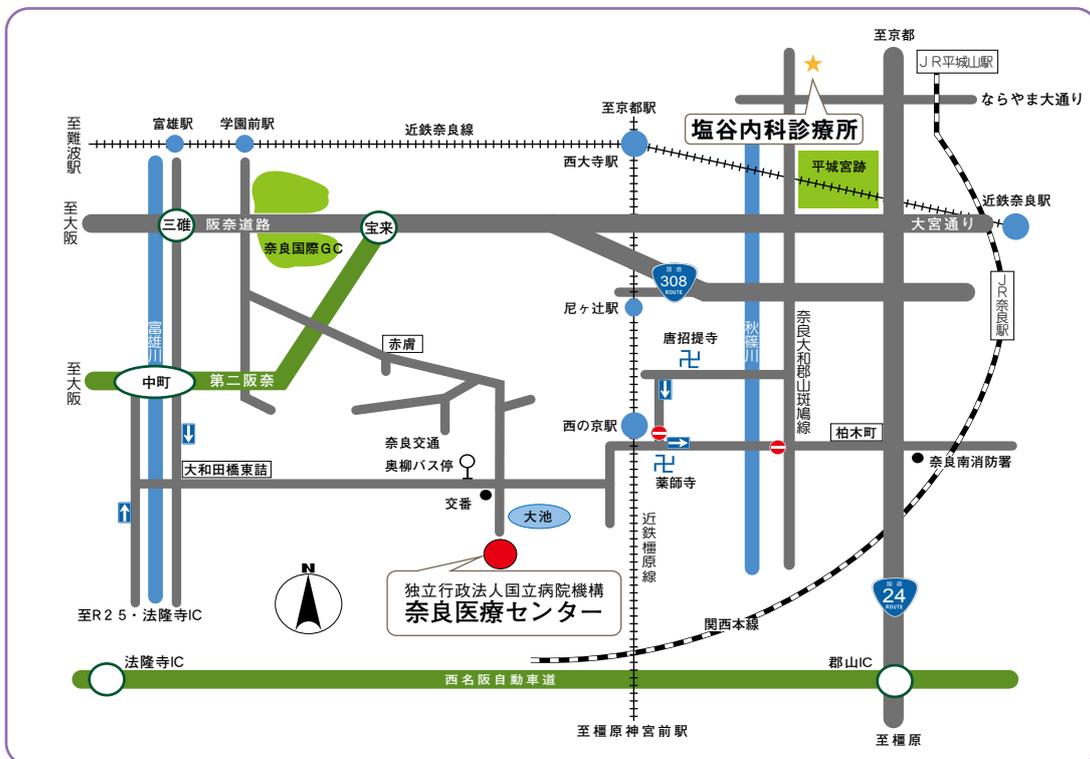
午後診 17:00～19:00

土曜日

午前診 9:00～12:00

休診日：木、日、祝日 ※臨時休診あり

奈良県奈良市左京1丁目13-37 ☎0742-71-3950



独立行政法人 国立病院機構
奈良医療センター
地域医療連携室

〒630-8053
 奈良市七条2丁目789
 TEL.0742-45-4591 (代表)
 TEL.0742-45-1563 (直通)
 FAX.0742-45-4901 (直通)